

2024年1月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2024年1月13日（土）10時00分～12時00分（120分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-1

集合：蓮華亭テラス：10:00

内容：植物・昆虫・野鳥の観察会

①ツガ（まつ科）

2cm程度の可愛らしいマツボックリが落ちています ①

②トベラ（とべら科）

緑の実が開いて実が鳥に食べられたようにこぼれています

③アカマツとクロマツ（まつ科）

荒木山のアカマツとクロマツの違いを調べてみましょう

④マツバラ（まつばらん科） シダ植物・準絶滅危惧種

プラタナスの二股に分かれた所にマツの葉に似た不思議な植物が

⑤ユリオプスデージー（きく科）

寒さに負けずに黄色い花が輝いて咲いているのをみると元気が出ますね

⑥昆虫の冬越し「植物ネームプレートの裏を調べてみよう。何かいるぞ！」 ⑤

昆虫は冬の時期をどのように過ごしているかな？ カマキリの卵を探そう！

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

防寒具・ルーペ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・採集袋・水筒など

お話し：亀井 尊（日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて自然に親しみます。

2. 寒暖差の対策と水分補給を忘れないこと！

3. 植物採集、昆虫採集はできません。

4. 植物のトゲや毒をもつ昆虫には注意しましょう。

時間配分

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の自然解説 【カンザキアヤメの花】

10:15～11:45 綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行き、戻ります。

①1月に咲く花と実の観察 ②葉痕・冬芽の観察

③荒木山の2種類のマツ ④昆虫の冬越し

11:50～12:00 今日の観察会を振り返って。 来月の予定 2月10日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

1. 木へんに母「梅」と書いて「つが」と読みます。まつ科の常緑樹なのできっとマツボックリが出来るはず。千葉公園では縄文土器のある花壇の南側の土手に小さな実をつけています。
2. トベラの実は匂いがあるのでオニが嫌うようです。節分にはヒイラギの葉にイワシの頭をつけて玄関に飾り禍を防ぐような習慣があります。あなたの地域での節分の慣習を教えてください。
3. お正月の生け花では、緑の生き生きしたクロマツの葉にセンリョウの赤い実と緑の葉が新年を飾ります。クロマツの冬芽は何色をしているか観察してみると、白色ではないですか？
4. 緑色のマツバの葉に似たものが大木の股の間に見られます。たくさんのゴミがたまっているところに種子が付着した不思議な植物です。マツバラという珍しいシダ植物の仲間です。
5. この時期は花が少なくてちょっと寂しい感じがしますが、寒さに強い植物もその存在感を示し昆虫に蜜や花粉を提供しています。黄色に輝くユリオプスデージーは厳冬期に咲く希望の花。
6. 厳冬期には昆虫はどのように過ごしているのでしょうか。成虫で過ごすキタテハのようなチョウや卵で過ごすカマキリがいます。ネームプレートの裏側をそっと開けてみると何かいるぞ！

主催：NPO 法人 ちばサイエンスの会 連絡先 080(3503)6059（亀井）



千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

2024年（令和6）甲辰 新年あけまして おめでとう ごぞいます

地球環境は年々悪化の傾向をたどり世界各地で地球温暖化の影響による森林火災や河川の洪水、森林伐採による水不足による農業被害や干ばつなどが発生し、これに対して国連のグテーレス事務総長は「地球沸騰時代の到来」と国連総会の場において危機的状況を全世界に訴えました。

私も2017年から学生に対して環境の大切さを授業で教えてきましたが、数々の異常気象による異変は地球の各地で発生し、そのたびに国連の各会議で対策を話し合うことになるのですが、環境の重要性は十分理解しているものの経済活動を優先に開発を進めようとする各国の政策によって環境対策が滞って、なかなか改善されない状況にあります。

このような中でコロナ感染が世界中に蔓延し、2019年から2022年までの長きにわたって続き、人類史上感染症による人類存亡の危機的な状況に追い込まれました。さらに悪いことに他国に戦争を仕掛けるという事態が2022年と2023年に起こり、世界は行き先の見えない混沌とした時代を迎えることになってしまった。これらの要因を考えると、全てが地球環境の破壊によるものが大きく影響しているように思えます。森林を伐採することで、生息地を奪われた生きものによってこれまで表舞台に出てこなかった未知なるウイルスが出現するようになり、目に見えない恐怖を人類に与えるようになった。つまり、開発により地球環境が壊れることによって未知なる細菌が地球上を覆うことになり、人類存亡の危機が続いたわけです。開発を止めないかぎりさらなる禍が生じる可能性があることを理解しなければならぬときが来ている。

お正月に千葉公園を散策してみたが何かいつもと違う。樹木が減少して、草花の数も減り、いつも花が咲いているはずの花壇は何と寂しいものか。これでは昆虫は生きていけない。虫がいなくなったら植物も子孫を残すことができない。昆虫がいなくなったら地球の自然も人間の暮らしも全てがダメになることを知らないのか。庭に在来の草花を植え、昆虫が飛来する回廊を作りましょう！ネイチャーポジティブについて考え、来年度は千葉公園自然観察会をお休みすることにしました。

《1月の自然観察》

1. ツガ（まつ科） 梅（木へんに母）

細かい葉が次々に連なっているので「継ぐ」が展化して「ツガ」と命名されたようです。

ツガの木を下から見上げると、葉裏の気孔線が白いので青白く見えます。そして枝先に小さな球果が下向きにたくさん着いています。足元に転がっている実を採集してみましよう。また12月に観察したモミと比較して観察してみましよう。まずは葉身の長さ、葉の先の尖り、葉の付け根はどうなっていますか調べて、下の空欄を埋めてみましよう。

モミの特徴：1.5～2.5 cm・先端が2つに割れ尖る・葉の付け根が吸盤状

ツガの特徴： cm・



【ツガの葉と実】

2. トベラ（とべら科）常緑低木で雌雄異株

花は甘い香りで近くにいと癒されるようですが、枝や葉、根には臭気があり、節分除夜にこの木の枝を玄関の扉にさし、鬼除けのまじないに使った「扉の木」が「トベラ」から「トベラ」になったようです。甘い香りに誘われたミツバチが蜜を集めているのを見たことがあります。潮風に強く、海岸に多く植えられています。実生から生えることもある強い木ですが、カイガラムシなどが付きやすく虫の排泄物から「すす病」にかかりやすいようです。実生や葉の観察をしてみましよう。ヒイラギと違って葉には鋸歯がないですが葉を火にくべれば爆ぜて燃え、その音と臭気でヒイラギと同じく鬼を祓ったのでしょね。



【トベラの匂いは？】

3. アカマツとクロマツ（まつ科）

千葉公園の荒木山はアカマツ琳の見られる市内でも貴重な場所となっています。近年、松枯れ現

象などが見られるようになり、地球環境の悪化が樹木に悪影響を与えています。

お正月にマツを立てる行事は日本独特のものです。門松を立てるという記述は「源氏物語」「枕草子」にもなく、延久年間（1069～74）に文人の惟宗孝言（これむれのたかとき）が初めて門戸に挿すようになったと記した。アカマツは内陸に、クロマツは海岸線に分布し、平安期以降、長寿、安泰、豊作を願って門松として飾られるようになりました。



【アカマツの葉】

【アカマツの幹】

4. マツバラン（まつばらん科）

ランの名前がついていますがランではありません。原始的なシダ植物類に属して、それも半端な古さではありません。何と4億年前の古生代に出現した最初に茎を持つ植物の形を遺文しています。観察して見ると茎は二叉分枝（にさぶんし）し、これはイチョウの葉脈にも残っています。この不思議な植物がどこで見られるかという、最初に発見したのがかつてあった護国神社に向かう右手にタブの巨木の幹を観察していたときでした。二股に分かれた間に落ち葉などがたまり、その中から緑の芽が出て、ヤドリギかなと思ったのを覚えています。



荒木山近くのプラタナスの幹にもマツバランを見つけたことで珍しくないことが分かりました。江戸時代にブームになって品種は何と100種以上にもなったといわれています。

5. ユリオプスデージー（きく科） きく科の木本（常緑低木）

【マツバランの緑の茎】

花の少ないこの時期に花壇では黄色に輝く花が咲いていると驚ろくと同時に嬉しくなります。葉や茎には白い毛があるので薄雪が積もったようにも見えます。花の色が白ければマーガレットに似ていると思う人も多いと思います。この植物はきく科の植物です。きく科の植物はほとんどが草本類ですが、ユリオプスデージーは木本類に属して、背丈は1m以上にも生長します。原産地は南アフリカのケープ地方で、暑さや寒さには耐える性質の植物です。

【冬の時期に咲くきく科の植物】 ユリオプスデージーはきく科では珍しい木本類です



【ユリオプスデージーの花と葉】

この時期のきく科草本【ノースポールとシロタエギク】

6. 昆虫の冬越し 「カマキリの卵を探そう」

公園内の樹木には12月頃から植物愛好家によってユニークなネームプレートが掲げられています。冬の寒さをしのぐために昆虫がプレートの裏側に潜んでいるかもしれません。調べてみましょう。昨年はヒマラヤスギの巨木には「タカアシグモ」の冬越しを観察しました。

綿打池周辺のマツの木にはワラが巻かれています。これは「コモ撒き」といって千葉公園の冬の風物詩となっています。このワラの中にクモやカメムシなどの昆虫が冬越しをするために入り込んでいます。

また、カマキリの卵がどんどころで見つかるか探してみましょう。

- ・オオカマキリ：ササの枝
- ・ハラビロカマキリ：
- ・コカマキリ：



【腹巻みたいなワラ】



【タカアシグモの成虫】

《1月》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】ツガ



①小さなマツボックリが枝にたくさん着いています。乾燥すると実が大きく開きます。



②常緑の広葉樹でこの時期に赤い種子が見られます。どんな香りか調べてみましょう。



③荒木山はアカマツの見られる市内でも貴重な場所の一つです。(左クロマツ・右アカマツ)



④マツバに似た葉っぱが木の股で見られます。これがシダ植物のマツバラです。

【⑤】ユリオプスデージー



⑤厳冬期に咲く植物は寒さに強いエネルギーを秘めています。ユリオプスデージーの観察です。

【⑥】昆虫の冬越し



⑥昆虫の冬越しを調べてみましょう。植物ネームプレートの裏をめくると何と。